

令和8年度富山市大山歴史民俗資料館運営協議会議事概要

1 日 時 令和8年7月23日(木) 午前10時から11時30分まで

2 場 所 大山歴史民俗資料館 研修室

3 出席者 委 員：久保委員、山森委員、細田委員、田島委員、田中委員
事務局：富山市教育行政センター吉村所長(資料館館長)
富山市教育行政センター生涯学習係 田村係長
大山歴史民俗資料館 松本職員、真田職員

4 傍聴者 なし

5 議 事

- (1) 令和7年度事業報告について
- (2) 令和8年事業計画について
- (3) その他

6 主な質疑・意見等

- (1) 会長及び副会長の選出について

委員の互選により、会長に久保委員が選出。

会長の指名により、副会長に山森委員が選出。

- (2) 令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画について

細田委員 昨年のJA納涼祭で、資料館の体験講座で講師をされた方を招いて、工作ブースを設けたところ、子どもたちに好評であった。

今年の10月17日(土)には自治振興会連合会主催の「大山フェスティバル」というイベントがあり、会場の大山会館に多くの人を訪れる。大山地域の人でも山の方はなかなか行きたがらないので、この機会に大山会館内の資料館展示スペースを見ていただいて、大山歴史民俗資料館を認知してもらとうとよい。

山森委員 大山会館の展示スペースは狭いが、当日はかなり多くの人に立ち寄ってもらえると思う。大山会館の展示については、資料館本館と機能を分けて、「大山の三賢人」を中心に展示するのはどうか。さらに、3箇所に分かれて建っている三賢人の像を大山会館の芝生広場へ集結させるのが望ましい。大山会館の建設時にそういう構想もあったが費用面で実現できなかった。

大山の人も「大山地域」という意識が薄れてきている。大山を意識した展示をしても来館につながらない。資料館の展示内容は大山エリアにこだわらずに、北陸電力とともっとタイアップして、「有峰の電源開発」の展示を充実させるべきである。

事務局 大山会館は人が常駐していないため、三賢人の貴重な資料の展示はセキュリティの面で課題がある。

田島委員 入館者への解説だけでなく、各町内会や公民館へ出向き、資料館の展示に関連した説明をして、資料館にある実物をイメージしてもらうことで、資料館に行ってみたいという気持ちを高めてもらうのがよいと思う。

富山市の出前講座メニューの中に加え、こちらから出向いてく仕組みをつくと入館者数は跳ね上がると思う。

また、市のホームページなどで資料館の展示内容を動画で公開するなど、インターネットを利用した広報を積極的に行ってはどうか。インターネット上の情報は、AIが自動で整理し検索者に情報提供してくれるので、資料館への入口が広がると思う。

細田委員 若い人たちはデジタル機器の取り扱いに慣れているので、インターネット上での情報提供はこの資料館のことを知ってもらうためのよい方法だと思う。

田島委員 立山カルデラ砂防博物館などこの周辺施設で連携して、ここに来る動線の確保ができるとよい。県の立山自然保護センター、立山博物館、立山カルデラ砂防博物館は連携している。

事務局 立山博物館、立山カルデラ砂防博物館には当資料館のリーフレットを置いてもらっている。また、「立山博物館でこちらの紹介をしてもらったので寄りました。」と言われる方もおられる。今後も連携に努めたい。

田島委員 現地に行ってみに見えるものでも、それに対する詳細な知識がないと楽しめないことがある。その知識を埋めるのが博物館や資料館である。「どこに行けば何を知ることができるか」をもっとはっきりさせると博物館や資料館に足を運びやすい。

山森委員 屋外の巨大な水車ランナーは日本でも最も出力の大きい重要な展示だ。北陸電力の新人研修に活用されている。開館当初からある展示物は大切ではあるが、時代の流れの中で見直しをした上で他の博物館との連携を図るのがよい。

現在、展示内容の幅が広いので、有峰の自然を知りたい人は有峰森林文化村へ行く、有峰の歴史を知りたい人は大山歴史民俗資料館へ行くというふうに目的を絞った展示内容がよいのではないか。

カモシカ等の剥製が展示してあるが、展示テーマとどのような繋がりがあのか。

事務局 剥製は生態の紹介ではなく、資料館の温かい雰囲気づくりのために配置している。入口で白いカモシカが出迎え、展示の中間地点の休憩ホールではリラックスしてもらいたいとの思いがある。剥製に触れることはできないが、入館者と資料館の心の触れ合いになればよい。

田島委員 有峰森林文化村に来られた団体をこの資料館へ引率した際に、入口で白いカモシカを見た人から歓声が起こることがある。幼い子供たちにとっては、ちょっと難しい解説が多い中、剥製には興味をもって真剣に見ている。引率する立場としてはありがたい。

山森委員 この資料館の課題として交通の便が悪いことがある。また、地元の中学生から「大山歴史民俗資料館に一度も行ったことがない」と聞いたことがある。小中学生が学習の場として利用する手だてが必要だ。

田中委員 旧大山町の時代は、町立の学校とこの資料館である程度の繋がりがあったと思うが、富山市に合併してからは、市の教員の中でこの資料館のことを知っている者は少ない。私自身も小見小学校に来るまで知らなかった。教員間の知名度を上げ、教員に子どもたちをここへ連れてきて学習させたいと思ってもらわなければならない。

来月、小見小学校の教員研修をこの資料館で実施することにしたのは、先生方にこの資料館のことを知ってほしいという思いからであり、区域の校長

会でも資料館での教員研修を話題にできる。

現在、富山市の小学校では、科学博物館や民俗民芸村、ガラス美術館等を見学することが多い。大山地域や近隣の学校であればこの資料館の見学も可能である。しかし、教員自身がこの資料館のことを知らなければ、小中学生がここに集まることはあり得ない。資料館からも富山市内の学校へアピールしてほしい。

事務局 教員への認知度を上げることは大切なことだと思う。以前、上滝中学校に資料館の展示内容の説明と利用のお願いしたことがある。貸し切りバスの手配や大山歴史民俗資料館を含めた行程等の課題があり、実現が厳しいと感じた。

山森委員 参考までに、猪谷関所館の入館者数は年間どれくらいなのか。

事務局 猪谷関所館の令和7年度入館者数は、5,437名だった。

田島委員 猪谷関所館にはVRがあり、子どもたちがとても喜ぶ。この資料館にもVRのようなものができればいいと思う。VRはデータさえあれば狭いスペースでも設置できる。体力的に登山ができなくなった高齢者が登山を疑似体験できるなど魅力的なツールだ。

「ここではこんなことができる」ということを整理すると学校や旅行会社等に情報を提供しやすい。「どの年齢の子にどのようなことをアピールできるのか」を整理して提供できるとよい。

山森委員 ここは民俗資料館で、収蔵庫には民具等の資料がたくさんある。収蔵庫を見学する企画があってもよいのではないか。

田中委員 学校には教材として昔の道具を探している先生がいる。「ここにはこんな道具がある」という情報を提供すれば、先生が見に来たり、子供たちの見学につながったりする。

田島委員 昔の道具を比較して、同じ機能をもっている道具でも暮らしている土地の地形や気候等で形が異なることを発見すれば、子どもたちにとってすばらしい教材となる。

田中委員 最近、学校が新しくなると古い道具や展示を処分していく傾向がある。昔の道具に関する整理された情報が必要な先生に届けば、他の先生方にも広がるかもしれない。それが教材研究となり、子どもたちに伝わり、子どもたちが大人になった時に次の世代に伝わるかもしれない。

久保委員 全国的に博物館の収蔵スペース不足が問題となっており、ついに文化庁から文化財の廃棄基準が示されたが、富山市ではどのような状況か。この資料館への影響はあるのか。

事務局 富山市としては、余程のことがない限り文化財の廃棄はできないと考えており、この資料館でも今の段階では資料の廃棄は検討していない。